

姫路市子ども読書活動推進計画（第4次）（案）の概要

第1章 第4次計画の策定にあたって

子供の読書活動の意義・策定の趣旨・期間

- ・読書活動は、子供の探究心、表現力、想像力を養い、子供にとってより豊かな人生を生きることにつながる。
- ・平成28年策定の第3次計画の成果と課題、発達し多様化するメディアの状況など社会情勢の変化、国及び県の第4次計画における見直しを踏まえ、引き続き子供の読書活動を推進するため、第3次計画を改定し、第4次計画を策定する。
- ・第4次計画の期間は、令和3年度から令和7年度までの5か年とする。
- ・「子供」とは、おおむね18歳以下の者をいう。

第2章 第3次計画における取組状況

<主な成果>

- ・関連施設において啓発行事や子供向け行事が多数開催された。
- ・7か月児の健康相談におけるブックスタートを引き続き実施した。
- ・「ひめじ子ども読書週間」などにおいて、関連施設の連携が進んだ。
- ・学校司書の配置により、学校図書館が整備でき、授業での活用が進んだ。
- ・学校司書と図書館の連携により、「学校支援パック」を含む団体貸出数が増加した。

<主な課題>

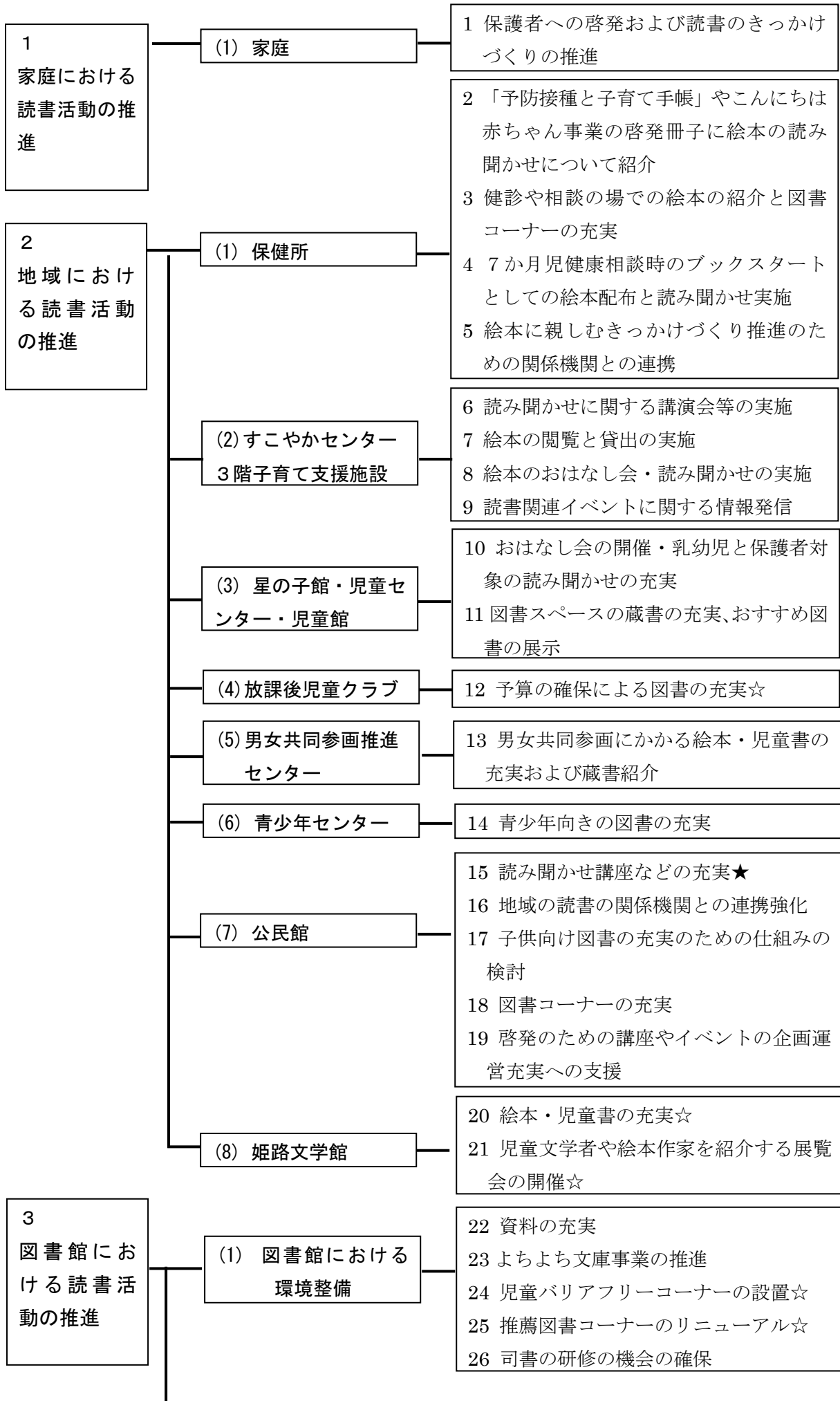
- ・子供の読書に関心の薄い保護者や施設を利用していない市民への働きかけが難しい。
- ・地域の関連施設における図書コーナーの整備が十分でない。
- ・学校図書館について、「読書センター」に加え、「学習・情報センター」としての機能強化を図る必要がある。

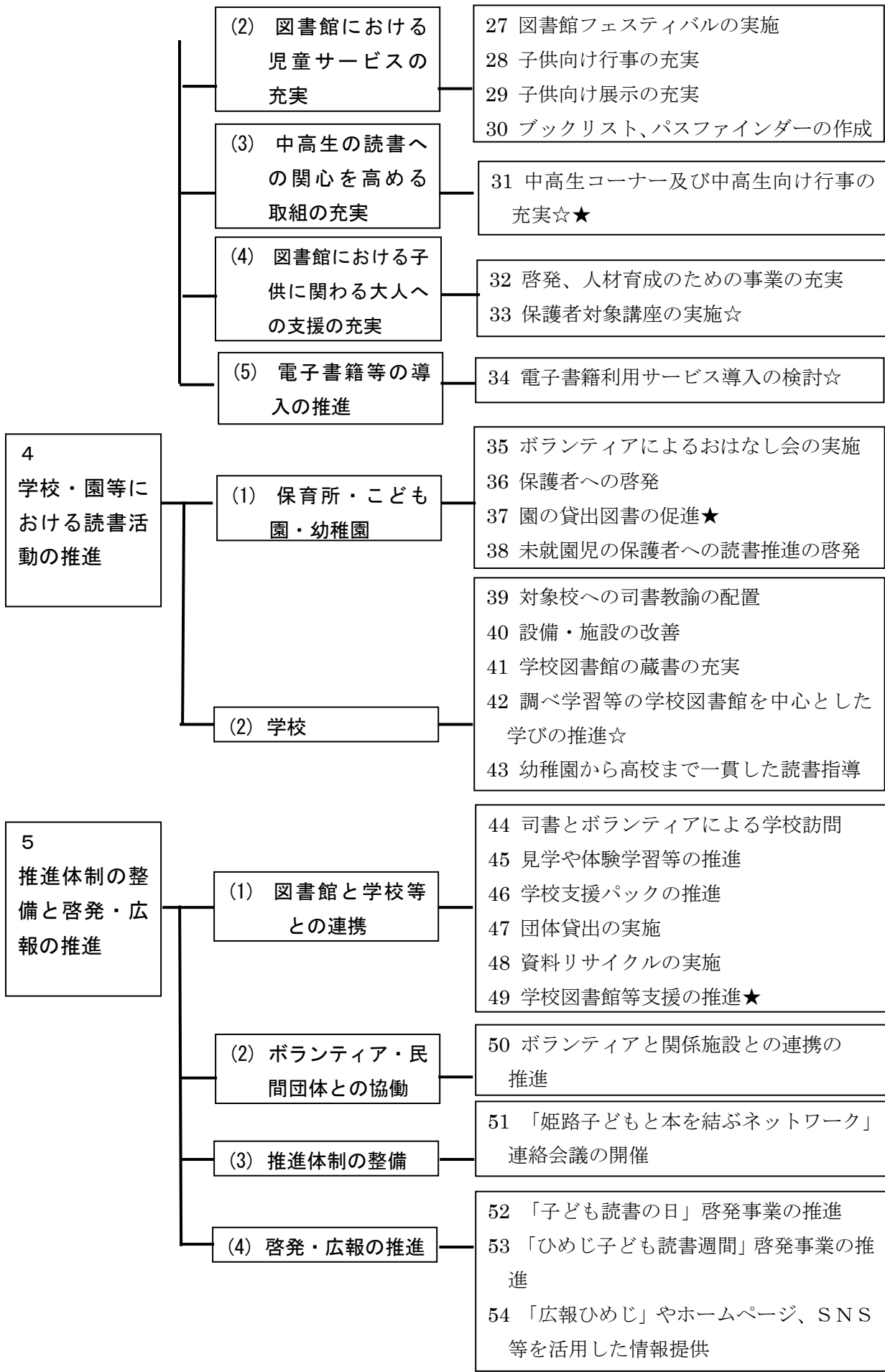
第3章 第4次計画の基本的な考え方

<基本目標> 「心豊かで幸せな人生につながる本と出会うために
子供の環境—本・場・人—を整える」

<基本方針> 「子供一人一人の発達に合わせた読書の機会の提供」「家庭・地域・学校を通じた社会全体で取り組む」「子供の読書活動への関心と理解の普及および人材育成」

3 施策の体系





☆は、新規事業

★は、重点事業

「子どもの読書に関するアンケート調査」について（概要）

1. 調査目的、対象および実施時期

- (1) 国の「第四次子供の読書活動の推進等に関する基本的な計画」の指針を参考に、市内の中学生の読書活動の現状を把握する目的で実施
- (2) 市立中学校義務教育学校全 35 校のうち、図書館近傍とそうでない学校を 13 校抽出し、各学校から 1 クラスずつを対象として実施（市立中学校在校生 2 年生 4,609 名のうち、426 名）
- (3) 令和元年 10 月 1 日～10 月 31 日

2. 主な調査内容と集計結果

- (1) 一か月何冊ぐらい本を読みますか？
 - ・中学校 2 年生が 1 ケ月間に 1 冊も本を読まなかった割合は、22%。
 - ・第 65 回学校読書調査（令和元年 6 月実施の全国調査）では、中学生 13%。
- (2) 現在、本をあまり読まない理由はなんですか？（複数回答可）
 - ・他にしたいことがあったから（68%）
 - ・ふだんから本を読まないから（67%）
 - ・読みたいと思う本がないから（51%）
 - ・読むのがめんどうだから（48%）
 - ・他の活動等で時間がなかったから（44%）
- (3) 本を読むきっかけとなっていることは何ですか？（複数回答可）
 - ・学校で設けられた読書の時間（36%）。
 - ・自分の興味・関心（32%）
 - ・メディアの影響（32%）
 - ・家の中で手にとりやすいところに本が置かれている（27%）
 - ・家族と一緒に本を読んだり図書館や本屋に連れて行ってくれたりする（25%）
- (4) 幼児、小学生の頃からを振り返って、読書や図書館にかかわることで、楽しかった、嬉しかった、役に立ったと思うことはなんですか？（複数回答可）
 - ・書店に行ったこと（53%）
 - ・朝読の時間（46%）
 - ・学校へおはなしの人が来てくれたおはなし会（32%）
 - ・身近な大人に本を読んでもらったこと（23%）
 - ・市立図書館に行ったこと（18%）

3. 主な分析結果

- ・中学生では、時間的制約から本を読まなくなる傾向がある。
- ・本を読む習慣が無い、読みたいと思う本が無いなどの課題がある。
- ・本を読むきっかけには、学校からの働きかけや、家庭環境の影響が関係している。
- ・家族や友人だけでなくメディアの影響から興味や関心も広がると考えられる。
- ・小学校以前での読書に関する体験は、ある程度好ましいものと捉えられている。